

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会  
地域共生型社会推進事業助成金

## 事業完了報告書（公開用）

### 1、概要

報告日	平成 28 年 4 月 4 日
報告者	谷口 久美子
助成団体名 (所属団体名)	NPO 法人 CAZN
団体住所	〒 520-0843 滋賀 都道府県 大津市北大路1-4-15
団体電話番号	077 - 537 - 5922
代表者 (助成対象者)	理事長 谷口 久美子
助成対象事業	まちなか子どもほっとステーション
事業（助成）期間	平成 25 年 4 月 ~ 平成 27 年 3 月
事業費総額	700,000 円
助成金総額	700,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

#### 注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は**必ず撮影対象の方に事前に了承を頂く**ようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま [shigakyo@cello.ocn.ne.jp](mailto:shigakyo@cello.ocn.ne.jp) へメールにてお送りください。

## 2、事業内容

### 【平成 25 年度】

実施時期：平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月

毎週土曜日 13 時～16 時（夏休み期間は 10 時～12 時も開催）

実施場所：栄一会自治会館（石山商店街内自治会館の一つ）

実施回数：39 回

参加人数：子ども 100 名（幼児から小学校 5 年生）、スタッフ 93 名

大人が指導者となり、子どもたちに伝承遊び（独楽回し、ベーゴマ、おはじき、剣玉、お手玉、折り紙、かまぼこ落とし、ゴム飛び、割り箸鉄砲等）を教えたり、子ども同士で遊ぶ場所を 7 月から毎週土曜日の 13 時～16 時まで定期的で開催。夏休みには朝 10 時～12 時も開催した。また、参加者の年齢層を広げるために 10 月からは月 1 回うどん作りも実施。2 月には龍谷大学と協働で特別企画として晴嵐会館でお菓子を盛り付けるコンテスト実施した。3 月にはプロのこまの名人を迎えて‘こままつり’を晴嵐会館大ホールで実施。60 名余りの参加者を得た。

### 【平成 26 年度】

実施時期：平成 26 年 7 月～平成 27 年 3 月

実施場所：栄一会自治会館

実施回数：32 回

参加人数：子ども 134 名（幼児から小学校 5 年生）、大人 12 名、スタッフ 64 名

大人たちによる伝承遊び、遊ぶ場所の提供を昨年に引き続き定期的で開催した。昨年 1 年生だった子は 2 年生になり、顔なじみも増えてきた。お父さんが一緒にやってきてここで独楽回しの練習を一生懸命してクラスで 2 番目に上手くなった子。お母さんがベーゴマにはまり、以降毎回参加するようになった子。

また、今年度初めて実施した夏休みの宿題片付け日には遠く膳所学区から参加した子どももいた。家ではなかなか宿題が進まない状況を見かねて、お母さんに送り出されてきた子どもたちが、みんなですることのできた。この取り組みは来年も継続していきたい。

龍大生とのコラボも 2 年目になり、今年度も 2 回実施しました。学生さんたちも回数を重ねることで進行もスムーズになり、どちらの企画も学生さんならではの内容で、参加した子どもだけでなく大人も楽しめる内容となりました。特に『子ども 110 番の家をさがせ』は来年小学生になる子のお母さん方からは、「前もって通学路を体験できて良かった」と感想を寄せられ、次年度はできれば年度初めから地域の自治会の方とも協力して協働の取り組みとして継続していきたい内容となった。

### 【平成 27 年度】

実施時期：平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月

実施場所：栄一会自治会館、長等ほたるの家（長等商店街内、月に一回）

実施回数：31回（内2回は他事業に参加）

参加人数：子ども186名、スタッフ83名

屋内では伝承遊びに加えて、今年度からはボードゲームの日を作って、ボードゲームを教えてもらった。また、おやつの日も月に1回作り、主にホットケーキミックスを利用して簡単なおやつを子どもたちと一緒に作って食べた。屋外では、縄跳びや鬼ごっこなど、子どもたちが編み出したルールで遊んだ。

また昨年引き続き龍大生による企画で『子ども110番の家をさがせ』（2月13日、子ども21名参加）を実施。110番の家にいざという時にすぐ飛び込めるにつながりを作っておこうという目的で、15件の110番の家に協力してもらって実施した。あらかじめ頼んでおいたクイズを110番の家の方に出してもらおうという内容。それをビンゴゲームにしてビンゴになったら賞品がもらえるという内容で、子どもたちは楽しみながら学校までの間にある110番の家を回ることができた。

### 3、事業成果

#### 【平成 25 年度】

定着するまでは中々子ども達が集まらず子どもへの宣伝に苦労したが、回数を重ねる毎に毎回参加してくる子ども達が増え、「今日は土曜日や～ほっとステーションやと思っ  
て飛んできた」と飛んでくる子もいたりして、会場周辺の子どもたちにとっては、土曜日  
の居場所として定着した。後半になると、チラシをみて国分地域から、最初はお母さんが  
一緒に来て遊び、その後は子どもだけで参加し、次はその子が友達を連れてくるというケ  
ースもあり、年齢の幅も徐々にひろがった。多い日には 10 名近い参加の日もあり、そん  
な日は皆で花一もんめをしたり、また大きい子が小さい子をリードして遊ぶ姿も見られ  
るようになった。時には近所のお父さんが「家では思いきりこまが回せないの、今日は  
ここで回せるようになりや」と子どもと一緒に一日参加する姿もあった。

また、石山商店街らんらんさろんでチラシを見たお母さんが小さい子どもを連れて参  
加することもあり、商店街との連携も徐々にではあるが形になってきている。

#### 【平成 26 年度】

周辺の子どもの居場所として定着した。家の中ではどうしてもテレビやゲームで  
時間を過ごしがちな子どもたちが、この場に来て、身体を動かし、子ども同士で遊ぶこと  
で関係性を育んでいく。この関係性が学校に持ち込まれることで、虐めの防止にもつな  
がるのではないかと考える。

また、年に 2 回の大学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんと過ごす日常ではあまり得られな  
い時間も子どもたちにとっては貴重な時間と言える。同時に大学生たちにとっても小さ  
な子どもたちから見られたり、頼りにされることはきっと大人として育っていく上で貴  
重な体験になることと思う。

そして、商店街の地域を基盤に回を重ねたことで、商店街とのつながりも強くなり、新  
年度は別の事業を商店街振興組合や、地元の社協、民生委員さんたちと実施できること  
になったことは何よりも大きな成果と言える。

#### 【平成 27 年度】

継続してきた結果カズンの名前が子どもたちや保護者に浸透してきたこと、地域の中  
で「みんなの食堂」が春休み・夏休みに始まったこともあって、参加者が急増し、2 名  
のスタッフでは足りないほどになってきた。13 時に開けるとすぐに子どもたちがやってき、  
リピータの子も多く、後半にはその子たちがまた友達を誘ってくる状況が生まれてきて  
いる。

主に低学年とその兄弟の幼児がほとんどだが、1 年生から継続して来ている子も多く、  
この場が継続することで子どもたちの年齢層が広がることは期待される。

また、回を重ねることで保護者とのつながりも出来ており、安心して預けられる場所と  
しての信頼が出来てきている。

子どもたちも最初は受け身で遊んでいたが、今はルールを自分たちで考えて鬼ごっこを始めたり、自らベーゴマに挑戦したりと主体的に遊ぶ姿が見られるようになった。

ここでできた関係が学校に持ち込まれることで、学校の中の子どもとの関係性も柔らかなものになることが期待できる。

#### 4、今後の課題など

##### 【平成 25 年度】

当初の狙いの、力を持て余した中学生等、本当に参加してほしい層の子どもたちの参加は得られておらず、まだまだ一部の層に限られている。今後層を広げていくためには学校との連携が課題。今年度協働で来た龍谷大学地域福祉学科の学生さんたちとは今年度も協働する方向で話が進んでおり、次年度は龍大生の方で地域の子どものニーズ調査も実施予定。その上で、年間何回かの協働プログラムを実施予定。学生さんの魅力で、中学生にアピールできることが期待できるのではと考える。

また、子どもの力を石山商店街の活性化に繋げると言うことも出来ていない。大学生を頂点とした子どもの集団が出来てくることで、子どもたちの自主企画として、商店街を使った企画が出来るのではないかと期待している。

##### 【平成 26 年度】

会場周辺の子どもたちにとっては居場所として定着しましたが、参加者の層がなかなか広がらないのが課題である。自治会館ではなく、図書館や公民館など、晴嵐学区内の開かれた場所も視野に入れての開催も今後の課題です。

龍大生による特別企画の時には日ごろ来ていない子どもたちの参加もあるので、ただ遊ぶだけではなく、毎回特徴のある企画を入れていくことも検討課題と考えます。

夏休みには地域の遊びや物作りの得意な方たちの力も借りて、地域の方たちと一緒に子どもの育ちを見守れるような内容に発展させたいと考える。

また、毎回参加してくれる子どもたちが主体的に企画し、石山商店街の夜市や祭りなどに参加することで、商店街の活性化に一役買うことができると考える。

##### 【平成 27 年度】

会場が自治会館ということで、自治会に入っていない家の子どもたちは来にくかったのではないかとと思われる。

当初の予定では中学生に来てもらって子どもたちのリーダーになってもらいたいという思いはあり、商店街の祭りなどで呼びかけたりもしたが、結局参加は得られなかった。中学校とも連携し、役割などを明確にしながらの呼びかけが必要かと思われる。

子どもたちにとって、安心して遊べる場所が必要だが、ボランティアだけでは継続しない。今回助成金をいただけたことでこういう場を開くことができた。こういった場を地域の大人たちの協力で地域の中に作っていき、子どもの関係性を柔らかく育み、学校でも家でもない場で子どもたちが色んな人たちと触れ合う機会を保障していくことが大切だと考える。

今後は「遊べる・学べるみんなの食堂」としてこの活動を引き継いでいきたい。